

1 日本列島は千年ぶりの「大地変動の時代」が始まった

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災によって地盤に加えられた歪みが修正される過程であるという。

日本列島は千年ぶりの「大地変動の時代」が始まっており、世界最大の地震とも言われ、日本全国巨大地震級「五畿七道（ごきしちどう）巨大地震」と記録されている仁和地震（南海トラフ巨大地震）の再来があるという予測もあり、多くの研究機関から注意喚起があります。

【東北地方太平洋沖地震前後の地震と火山の噴火】

2011 年 1 月 26 日 宮城県境にある霧島山系の新燃岳（しんもえだけ）が噴火

2011 年 3 月 11 日 東北地方太平洋沖地震（マグニチュード 9.0）7（強宮城県栗原市）

2011 年 3 月 12 日 長野県北部地震長野県北部（マグニチュード 6.7）6 強

2011 年 3 月 15 日 静岡県東部地震静岡県東部（マグニチュード 6.4）6 強

2011 年 4 月 7 日 宮城県沖地震 宮城県沖（マグニチュード 7.2）6 強

2011 年 4 月 11 日 福島県浜通り地震 福島県浜通り（マグニチュード 7）6 弱

2013 年 4 月 13 日 淡路島地震 淡路島付近（マグニチュード 6.3）6 弱

2014 年 9 月 27 日 長野・岐阜県境にある御嶽山（3067 メートル）噴火

2014 年 11 月 22 日 長野県北部地震 長野県北部（マグニチュード 6.7）6 弱

2015 年 5 月 3 日 箱根で火山性地震増加

2015 年 5 月 21 日 桜島で大きな噴火 山体が膨張し続け 2020 年ごろに大噴火か

2015 年 5 月 29 日 口永良部島噴火 灰の傘、山肌走る火砕流

2015 年 6 月 16 日 浅間山噴火。19 日夕方にもごく小規模な噴火

2016 年 3 月 11 日 鹿児島県のトカラ列島にある諏訪之瀬島で爆発的な噴火

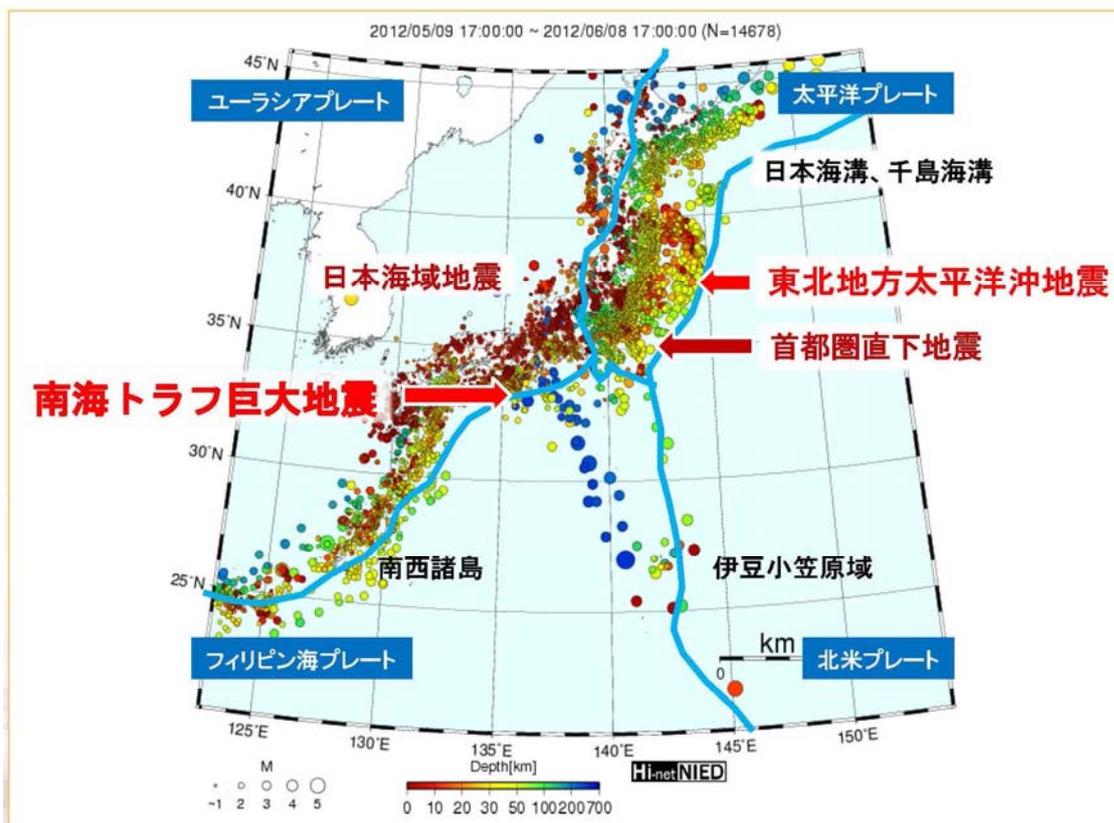
2016 年 4 月 14 日 熊本地震 熊本県熊本地方（マグニチュード 6.5）7

2016 年 5 月 1 日 桜島噴火 爆発的噴火で火口縁上 4100m まで噴煙上昇

2016 年 10 月 21 日 鳥取県中部地震 鳥取県中部（マグニチュード 6.6）6 弱

2016 年 11 月 8 日 阿蘇山噴火

2016 年 11 月 22 日 福島県沖を震源とする M7・4 の地震。東北地方太平洋沖地震の 5 年 8 か月ぶりの余震



「引用：防災科学情報発信のあり方 海洋研究開発機構 金田義行」

2 平安時代に連続して起きた地震と噴火がそっくり

1148年前の平安時代869年の貞観11年に貞観三陸沖地震が発生。この貞観三陸沖地震に前後して5年前の864年(貞観6年)から866年(貞観8年)まで富士山の貞観大噴火が発生し、その21年後、貞観三陸沖地震から18年後の887年(仁和3年)、マグニチュード8.7あるいはそれ以上とも推定され、世界最大の地震とも言われている仁和地震が発生しています。

別称「五畿七道(ごきしちどう)巨大地震」とも記録され、近畿地方の五畿(大和、山城、河内、和泉、摂津)と七道(東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道)転じて日本列島全体が激しく揺れ動いた「日本全国巨大地震」でした。

このときは、フィリピン海プレートが全面的に大きくづり動き、そのプレートのもぐりこんだ最先端に位置する中央構造線の和泉～石鎚活断層が5m～10mづり動いたとされています。

【今からおおよそ1150年前の平安時代に連続して起きた地震と噴火】

864年(貞観6年)から866年(貞観8年)まで富士山の貞観大噴火

867年(貞観9年)阿蘇山大噴火

868年(貞観10年)7月8日、播磨国(兵庫)で地震。官舎、諸寺堂塔ことごとく頽倒の記述

869年(貞観11年)貞観三陸沖地震。貞観津波が発生

871年(貞観13年)鳥海山噴火

874年(貞観16年)開聞岳噴火

878年(元慶2年)相模・武蔵地震(関東地方)伊勢原断層M7.4

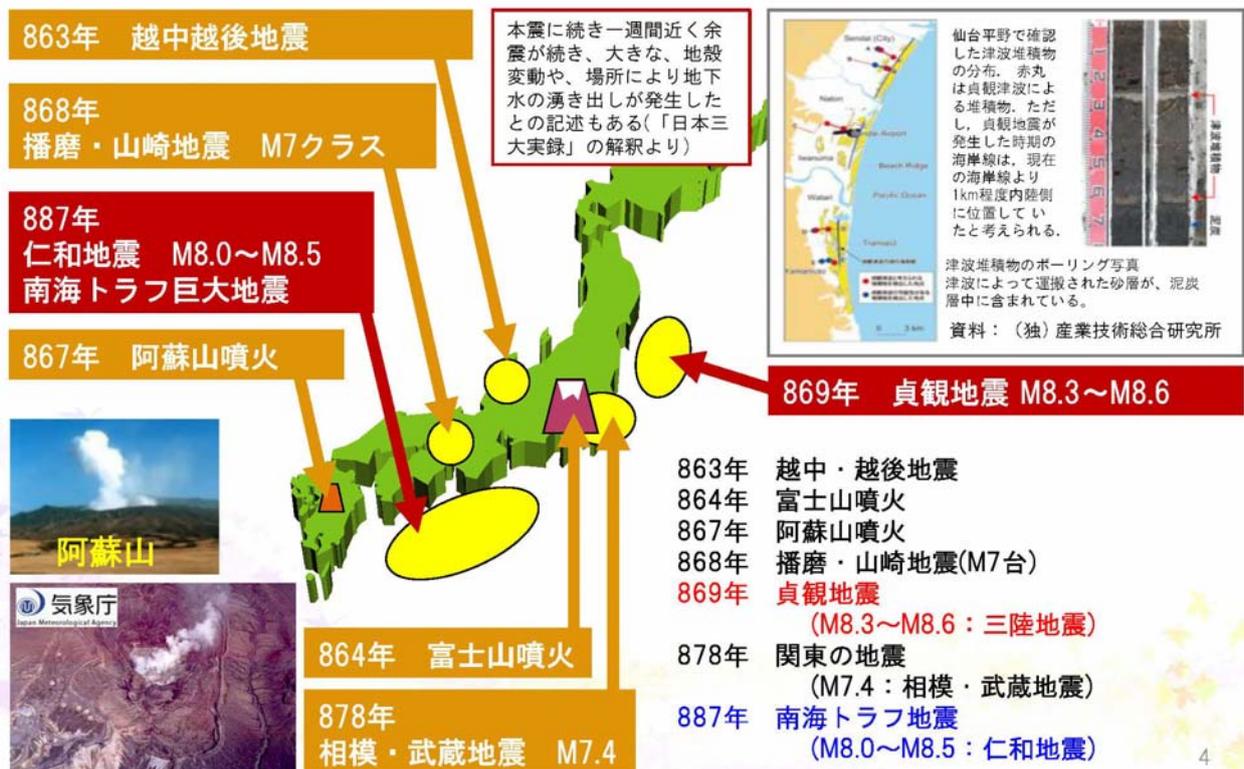
887年(仁和3年)仁和地震。「五畿七道(ごきしちどう)巨大地震。南海地震、M8.0～8.5、東海・東南海との連動説も

887年(仁和3年)八ヶ岳の水蒸気爆発。千曲川・相木川を堰き止めて“大海(南牧湖)”や“小海湖”を造った

888年(仁和4年)大海(南牧湖)が決壊 善光寺平まで被害が及ぶ

巨大地震は周囲に歪をもたらす

-869年の貞観地震の場合-



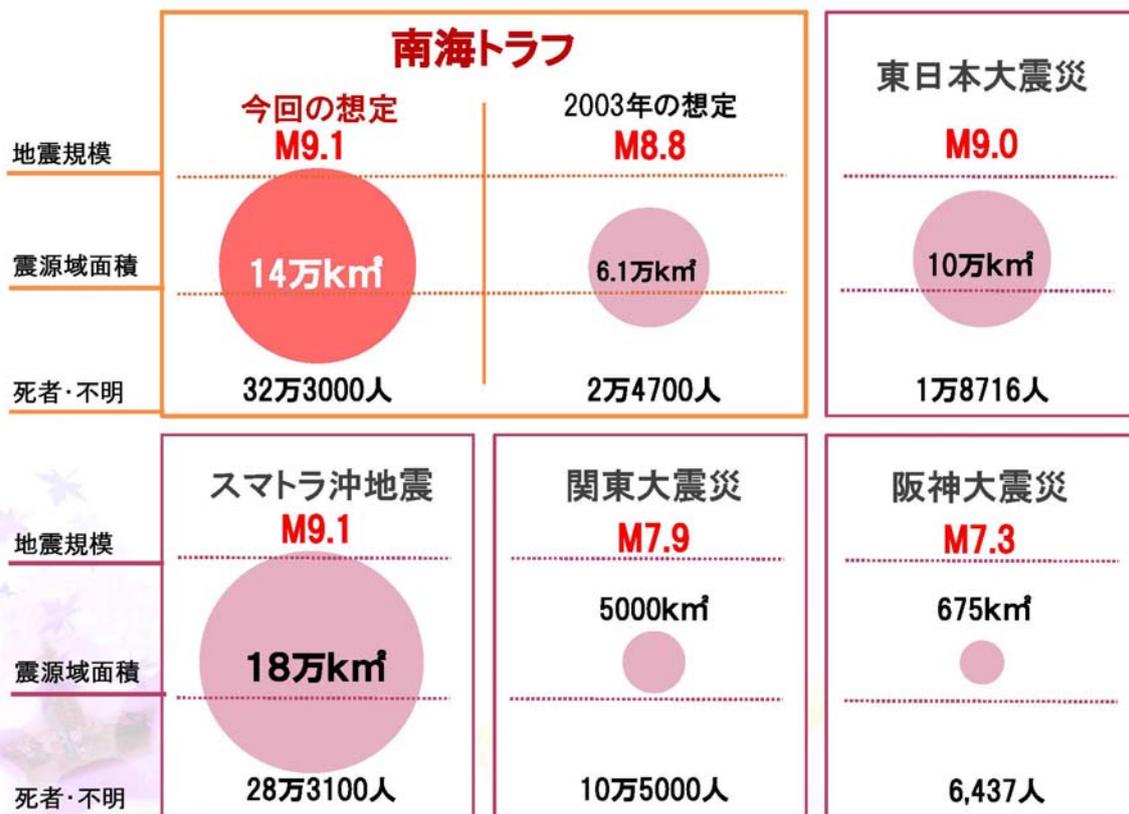
3 10年以内の南海トラフ巨大地震発生確率 20～30%

政府の地震調査委員会は2017年1月1日現在の活断層や海溝型地震の長期評価を1月13日に発表し、南海トラフ沿いで10年以内にマグニチュード(M)8～9級の地震が発生する確率を「20～30%」としました。

ちなみに、富士山の噴火については、琉球大学名誉教授の木村政昭さんが「すでにふもとにあたる富士宮市で突然地下水が噴き出す異常湧水が発生しています。山梨県から富士山を上る滝沢林道は300mにわたり道路が崩壊。それらはマグマが上昇してきたことを間接的に示しています」とし、噴火は「2014年±5年」と予測しています。

<http://news.livedoor.com/article/detail/9714177/>

南海トラフ巨大地震大津波被害想定の見直し



「引用：防災科学情報発信のあり方 海洋研究開発機構 金田義行」

【参考：東北関東沖・関東のM7以上の大きな地震】

- 869年7月9日(貞観11年5月26日:旧暦)貞観三陸沖大地震(マグニチュード8.6~9.0)、死者約1000人
- 887年8月22日(仁和3年7月30日:旧暦)仁和地震(マグニチュード8.7)
- 1611年12月2日(慶長16年10月28日:旧暦)慶長三陸地震(マグニチュード8.1)、死者2000人から5000人
- 1677年11月4日(延宝5年10月9日:旧暦)延宝房総沖地震(マグニチュード7.4~8.0)、流潰家1893軒、死者数569人
- 1703年12月31日(元禄16年11月23日:旧暦)元禄(関東)地震(マグニチュード7.9~8.5)
- 1793年2月17日(寛政5年1月7日:旧暦)寛政地震(マグニチュード8.0~8.4)、死者100人
- 1894年6月20日(明治27年)明治東京地震(マグニチュード7.0)、死者・行方不明者31人
- 1895年1月18日(明治28年)茨城県南部地震(マグニチュード7.2)、死者9人
- 1896年6月15日(明治29年)明治三陸沖地震(マグニチュード8.5)、死者・行方不明者21959人
- 1909年3月13日(明治42年)房総沖地震(マグニチュード7.5)
- 1921年12月8日(大正10年)茨城県南部地震(マグニチュード7.0)
- 1923年3月13日(大正12年)大正関東地震(関東大震災)(マグニチュード7.9)、死者・行方不明者150,000人
- 1933年3月3日(昭和8年)昭和三陸沖地震(マグニチュード8.1)、死者・行方不明者3064人
- 1953年11月26日(昭和28年)房総沖地震(マグニチュード7.4)

熊本地震 1年



アンケートの質問は27項目。熊本市、益城町、御船町、甲佐(こうさ)町、南阿蘇村、西原村の熊本県内6市町村を対象に、記者が仮設住宅を訪ねて聞き取った。回答者は男女50人ずつで、20歳代12人、30歳代20人、40歳代18人、50歳代15人、60歳代18人、70歳代13人、80歳代4人だった。

交流の輪広げる

無職 村本孝司さん 75

自宅は半壊。昨年9月に仮設団地に入居し、今は自治会長を務めている。元々面識がない住民も多いが、積極的にあいさつをして、交流施設「みんなの家」に誘い、テレビで大相撲や紅白歌合戦と一緒に、輪を広げている。高齢者や小さな子供など、いろんな人が集まれる場所になりたい。仮設での暮らしは人間関係が大事。何かを決めるときは、相手の意見をしっかりと聞くように意識している。(御船町)

被災者忘れないで

介護職員 田中麻衣さん 30

夫らと昨年8月に仮設住宅に入った。子供3人は、みんなの家で友達とトランプなどで遊び、お隣さんとも仲良くして安心感が高まっている。自宅は大規模半壊。所有する農地に家を再建したいが、必要な手続きが行政から認められず再建できない。街の表通りは元に戻りつつあるが、裏道に入るとまだ手つかずの状態の場所も多い。今でも震災で困っている人たちがいることを忘れないでほしい。(熊本市南区)

また家族一緒に

主婦 横田いつ子さん 58

夫と長女、長男家族の計7人で住んでいた木造2階建ての自宅が本震で全壊した。昨年9月から仮設住宅に夫婦で暮らし、長男家族は近くが別の仮設、長女は熊本市内のみなし仮設と、離れ離れになった。元の地域に戻り、また家族一緒に暮らしたい。昨年7月に公費解体が始まっているが、まだ作業がすすんでいない。町は解体作業を迅速化し、再建費用の援助も手厚くしてほしい。(益城町)

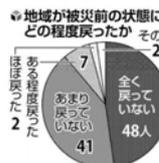
「復興進まず」9割



地域の将来には高い期待

被災者100人アンケート

被災者が暮らしていた地域の復興状況について、被災前の状態との程度戻ったかを尋ねたところ、「全く(1)」「あまり(2)を合わせ、約9割(計89人)が「戻っていない」と答えた。倒壊した家の解体が終了したとする人は公費、自費合わせて計10人だったが、更地のままの土地は多い。両親と暮らしていた自



●仮設住宅で近所づきあいがあるか

ある	52人
時々ある	13人
全くない	29人
ほとんどない	6人

仮設住宅で近所づきあいの有無を尋ねた質問では、「ある」(52人)、「時々ある」(29人)が計81割を占めた。甲佐町では被災前の近隣者が近くに住めるよう、部屋の割り振りや配膳を一緒にしているほか、交流が続いているケースもあった。仮設で知り合った1人1人の居のおおあちゃん(16歳)と1人1人の食を食べている(益城町の42歳女性)などのつながりもみられた。

「ほとんどない」「全くない」は計19人。理由は、「知り合いがいないから」(甲佐町の35歳男性)などのほか、「母の介護があるため」(益城町の58歳女性)という切実な理由もみられた。

今回の調査では、仮設住宅のコミュニティ活動は一定程度、機能している様子が見られる。今後には、地域活動に参加できない人などに対して、より細やかな配慮が求められる。

仮設住民 支え合い

自治会活動が「積極的」と受け止めているのは58人。県が仮設住宅に設けた交流施設「みんなの家」が活用されているように、「利用したことがある」のは68人だった。お茶会や子供向けの食事会、情報交換の場などとして使われており、「健康のため、ラジオ体操やエアロビクスなどの運動イベントに欠かさず参加している」(益城町の82歳女性)との声も聞かれた。一方、「利用したくない」「一方、人での「耳が遠い、迷惑をかけたくない」(熊本市の83歳女性)という人もいた。

心身の健康状態が「悪化した」としたのは、前回(16人)から34人(前回(21人)から16人に減少した。ただ、益城町の仮設住宅では3月、持病があった1人(42歳女性)が倒れた。そのほか、誰にもみられず亡くなったケースもあった。

今回の調査では、仮設住宅のコミュニティ活動は一定程度、機能している様子が見られる。今後には、地域活動に参加できない人などに対して、より細やかな配慮が求められる。

人気のランスポット・皇居外苑の風景を眺めながら走る「ラン」と、ライブ・ファッション講座で盛り上がる「パーティー」が一度に楽しめる「アクティブミューズフェス」への参加者募集中! 切は4月18日(火)!

開催日時 4月30日(日) OPEN(受付開始)10:30, START 12:30-CLOSE(終了)18:00 開催場所 皇居外苑/東京国際フォーラム

久松郁実

堀田茜

まい

CCモデルズ 出演決定!! SNS拡散特別キャンペーン実施中

当日イベントの様子をSNSで拡散いただける方!! チケット4,000円にて発売中! [アクティブミューズフェス](#) [検索](#)

©読売新聞社 無断転載、複製を禁止します。